



2022 年 ルール変更 対照表

第 I 章 総則

変更前	変更後
変更前の内容	新しいカバー写真に差し替え、フッターの改訂日を 2024 年 9 月にする
ドキュメント全体 大会組織委員会 (Games Organizing Committee)	変更: 大会組織委員会 (Local Organizing Committee)
2. スポーツルールとトレーニング 2.2 国際競技団体もしくは国内競技団体ルールの使用 2.2.2 スペシャルオリンピックスのリージョナル大会および世界大会では、国際競技団体のルールが適用される。	変更: スペシャルオリンピックスのリージョナル大会、世界大会、 国際/大陸の単一競技会または複数競技会 では、国際競技団体のルールが適用される。
5.0 スペシャルオリンピックスの競技区分 5.2 競技レベルの基準 2020チャート レベル1/ルール: - 標準化されたスペシャルオリンピックスのルールが刊行され、プログラム、リージョナル大会、世界大会で一律に施行されている。 5.3.1 SOI は現在、格闘技、武術 (柔道は除く)、そりを使用する競技、モータースポーツ、空中スポーツ、射撃、およびアーチェリーを、SOI の事前承認が必要な地域で人気の高い競技としている。	変更: 5.2 スポーツレベルの基準 更新されたグラフでは、「パートナー」という用語を削除。 変更: レベル1/ルール: - 標準化されたスペシャルオリンピックスのルールが刊行され、プログラム、リージョナル大会、世界大会、 国際/大陸の単一競技会または複数競技会で一律に施行されている。 変更: 5.3.1 SOI は現在、格闘技、武術 (柔道は除く)、そりを使用する競技、モータースポーツ、空中スポーツ、射撃、およびアーチェリーを、SOI の事前承認を必要とする 地域で人気の高い競技 として分類している。
7. 医療および安全面の必要条件 7.5.1 環軸椎不安定 (亜脱臼) 性のあるダウン症のアスリートの参加については、補足 E を参照のこと。	変更: ダウン症 の環軸椎不安定 (亜脱臼) 性を持つ個人 (例: ダウン症) の参加に関する情報については、補遺 E を参照のこと。
9. 競技会参加の年齢条件とグループ分け 9.1.3 アスリートは、参加資格を満たしてい	変更: アスリートは、参加資格を満たしていれば、国内およびリージョナル大会までの大会に参加するこ



<p>れば、国内大会およびリージョナル大会までの大会に参加することができる。ただし、15歳未満の選手は世界大会に参加できない。</p>	<p>とができる。ただし、15歳未満の選手は、世界大会または国際単一競技会または複数競技会に参加することはできない。</p>
<p>10. スペシャルオリンピックスのディビジョニング 10.4.1.1 チームを性別によって2つのグループに分ける。女性チームは女性チームと、男性チームは男性チームと対戦する。混成チームについては、同等の能力の混成チームによる別のディビジョンを作るための相当チーム数がない場合は、男性チームと同じディビジョンとなる。</p>	<p>変更: チームを性別によって2つのグループに分ける。女性チームは女性チームと、男性チームは男性チームと対戦する。男女混合チームは、男性チームと同じディビジョンに分けられる。ただし、同等の能力を持つ男女混合チームが十分に存在して別のディビジョンを作れる場合に限り、混合ディビジョンとする。男女混合チームの編成については、スポーツ別ルールを参照すること。</p>
<p>11. マキシмумエフォートルール（以前のオネストエフォートルール） 11.3.2 種目タイプ - 記録の自然な差の例 11.3.2.1 立ち幅跳び競技において、30cmというかなり短い距離の改善であっても、ディビジョニングと決勝の間のパフォーマンス差としては、かなりのインパクトがあるであろう。よって、より大きなパーセントとするよう考慮する。 11.3.2.2 3000m 走などの競技において、10秒という小さな記録の改善は、ディビジョニングと決勝間での顕著なパーセンテージ改善を起こさないであろう。よって、より小さなパーセンテージとするよう考慮する。 11.3.2.3 ディビジョニング・パーセンテージ: 競技責任者は、ディビジョン内での最高記録と最低記録間のパーセンテージ差を考慮しなければならない。施行されているマキシмумエフォート・パーセンテージは、ディビジョン内の最高記録と最低記録間のパーセンテージ差よりも大きいものであるべきである。（競技のディビジョニング方法はマキシмумエフォートのパーセンテージルール/ガイドライン実施に影響を与えるものである） 11.3.2.4 ディビジョニングの記録達成場所と時間: 競技責任者は、いつ、どこでディビジョニングの記録が計測されたものなのかを考慮する必要がある。マキシмумエフォートのパーセンテージは、競技により異なり、ディビジョニングの記録と決勝記録が同一の競技会で作られた場合と、ディビジョニングの記録がそ</p>	<p>変更: セクション11マキシмумエフォート反則(旧称: オネストエフォートルール) 注: 名前の変更は、セクション全体で更新済み。 削除: このテキストは、S0リソースページにある別のドキュメントに移動 11.3.2 種目タイプ - 記録の自然な差の例 11.3.2.1 立ち幅跳び競技において、30cmというかなり短い距離の改善であっても、ディビジョニングと決勝の間のパフォーマンス差としては、かなりのインパクトがあるであろう。よって、より大きなパーセントとするよう考慮する。 11.3.2.2 3000m 走などの競技において、10秒という小さな記録の改善は、ディビジョニングと決勝間での顕著なパーセンテージ改善を起こさないであろう。よって、より小さなパーセンテージとするよう考慮する。 11.3.2.3 ディビジョニング・パーセンテージ: 競技責任者は、ディビジョン内での最高記録と最低記録間のパーセンテージ差を考慮しなければならない。施行されているマキシмумエフォート・パーセンテージは、ディビジョン内の最高記録と最低記録間のパーセンテージ差よりも大きいものであるべきである。（競技のディビジョニング方法はマキシмумエフォートのパーセンテージルール/ガイドライン実施に影響を与えるものである） 11.3.2.4 ディビジョニングの記録達成場所と時間: 競技責任者は、いつ、どこでディビジョニングの記録が計測されたものなのかを考慮する必要がある。マキシмумエフォートのパーセン </p>



<p>れ以前の競技会、またはトレーニング中に計測された場合と異なる。</p> <p>11.3.2.5 天候状態：競技責任者は、ディビジョン競技と決勝との間で天候状態が変わった場合には、これを考慮する必要がある。</p>	<p>ページは、競技により異なり、ディビジョンの記録と決勝記録が同一の競技会で作られた場合と、ディビジョンの記録がそれ以前の競技会、またはトレーニング中に計測された場合と異なる。</p> <p>11.3.2.5 天候状態：競技責任者は、ディビジョン競技と決勝との間で天候状態が変わった場合には、これを考慮する必要がある。</p>
<p>13. 上位レベルの競技会への進出条件</p> <p>13.3.1 プログラムは選出手順と基準を予め公表しなければならない。</p> <p>13.3.2 各国と地域の認定プログラムは大会組織委員会と共に、当該競技会への参加が認められるアスリートの人数やチーム数を競技や種目ごとに決定する。これが満たすべき参加枠（クォータ）である。</p> <p>13.3.3 各国と地域の認定プログラムは下位レベルの競技会における参加数をもとに、各競技種目において上位レベルの競技会に進出するアスリートやチームの数を割り出す。</p> <p>13.3.4 進出条件を満たすアスリートやチームの数がクォータを超えない場合、すべてのアスリートとチームが上位レベルの競技会に進出する。</p> <p>13.4.3.1 国際大会やリージョナル大会、および世界大会への進出に関しては、SOI の世界大会 部門がすべての申請に対して判断し、受理/却下を決定する。</p>	<p>追加/変更：</p> <p>13.3.1クォータは、各競技会において参加できるアスリートの最大参加枠である。</p> <p>13.3.213.3.4プログラムは選出手順と基準を予め公表しなければならない。</p> <p>13.3.3認定プログラムは大会組織委員会と共に、大会組織委員会によって許可されたアスリートの人数やチーム数を受け取る。</p> <p>13.3.413.3.3各国と地域の認定プログラムは下位レベルの競技会における参加数をもとに、各競技種目において上位レベルの競技会に進出するアスリートやチームの数を割り出す。</p> <p>13.3.513.3.4進出条件を満たすアスリートやチームの数がクォータを超えない場合、すべてのアスリートとチームが上位レベルの競技会に進出する。</p> <p>変更： 国際/大陸単一競技会または複数競技会、リージョナル大会、および世界大会への進出に関しては、SOI の世界大会 部門がすべての申請に対して判断し、受理/却下を決定する</p>
<p>14. スペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツ®</p> <p>14.1.2.3 ユニファイドスポーツ・コンペティティブモデルのチームはリージョナル大会、および世界大会で公式競技として参加できる。</p>	<p>変更：ユニファイドスポーツの競技モデルチームは、あらゆるレベルの競技会で競う資格がある。</p>
<p>14.1.3.3 ユニファイドスポーツ・プレーヤーデベロップメントモデルのチームはリージョナル大会、および世界大会で公式競技として参加できない。</p> <p>14.1.4.3 ユニファイドスポーツ・レクリエー</p>	<p>変更：ユニファイドスポーツ・プレーヤーデベロップメントモデルは、プログラムや国内大会レベルにおいて大会に出場する資格がある。リージョナル大会やワールドゲームズには出場できない。</p> <p>変更：ユニファイド・スポーツ・レクリエーション・</p>



<p>ションモデルのチームはリージョナル大会、および世界大会で公式競技として参加できない。</p>	<p>モデル・チームは、プログラムや国内大会レベルにおいて大会に出場する資格がある。リージョナル大会やワールドゲームズには出場できない。</p>
<p>14. スペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツ®</p> <p>14.2.3.3「意義ある参加」は、最適な参加をするためにチームメンバー（アスリートとパートナー）が行うべき努力であり、全プレーヤーがチームの成功のために貢献するという原則に基づいている。どのチーム構成においても、プレーヤーは必要な競技能力を身につけていなければならない。ゲームを支配し、チームの成功のためにチームメイトを疎外するプレーヤー、競技中に健康面や安全面において危険性のあるプレーヤーは、チームに入ってはいけない。ゲームを支配することを認めれば、他のプレーヤーの役割や参加の機会は大幅に限定されたものになり、スペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツのルール、精神や意図、哲学に背くこととなる。その場合にはスポーツルールごとに制定された規範、および規則に則って対応がとられる。</p>	<p>変更：</p> <p>14.2.3.3「意義ある参加」は、最適な参加をするためにチームメンバー（アスリートとパートナー）が行うべき努力であり、全プレーヤーがチームの成功のために貢献するという原則に基づいている。どのチーム構成においても、プレーヤーは必要な競技能力を身につけていなければならない。ゲームを支配するプレーヤー、チームの成功のためにチームメイトを疎外するプレーヤー、競技中に健康面や安全面において危険性のあるプレーヤーは、チームに入ってはいけない。ゲームを支配することを認めれば、他のプレーヤーの役割や参加の機会は大幅に限定されたものになる。この反則はスペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツのルールの精神や意図、哲学と理念に背くこととなり、競技団体ごとに制定された競技規則に則って対応がとられる。</p>
<p>14. スペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツ®</p> <p>14.2.3.4違反のもたらす結果は次のとおり：</p> <p>14.2.3.4.1特定プレーヤーに対する処罰（自発的な交代を促す、テクニカルファウル、警告、イエローカード、退場）</p> <p>14.2.3.4.2チーム全体への影響（試合の没収、トーナメントからの資格はく奪）</p>	<p>変更：</p> <p>14.2.3.4違反のもたらす結果は次のとおり：</p> <p>14.2.3.4.1特定プレーヤーに対する処罰（スポーツ特有の違反、例：選手交代、テクニカルファウル、警告、イエローカード、退場など）</p> <p>14.2.3.4.2チーム全体への影響への制裁（例：所有権の変更、試合の没収、トーナメントからの失格）</p>
<p>14. スペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツ®</p> <p>14.2.3.5 ユニファイドスポーツ委員は競技会において意義ある参加と同年代の参加が行われよう問題点を提議する権限を有す。ユニファイドスポーツ委員が、特定のプレーヤーがプレーを支配していると判断した場合、コーチを罰することができる。</p>	<p>変更：</p> <p>14.2.3.5 ユニファイドスポーツ委員は競技会において意義ある参加と同年代の参加が行われよう問題点を提議する権限を有する。ユニファイドスポーツ委員が、特定のプレーヤーがプレーを支配していると判断した場合、コーチを罰することができる。</p>



<p>14. スペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツ®</p> <p>14.3 スペシャルオリンピックス ユニファイドスポーツ・コンペティティブの競技設定</p> <p>ユニファイドスポーツ競技の実施に関する追加情報と詳細については、スペシャルオリンピックス各スポーツの規則を参照してください。</p>	<p>追加/変更:</p> <p>以下のスポーツ/イベントをチャートに含めた。</p> <ul style="list-style-type: none">● バスケットボール 3x3● 8人制サッカー● ビーチバレーボール チーム競技● ダンススポーツ ソロ/デュオ● ダンススポーツ チーム● ローラースケート シンクロナイズドスケート● 柔道ダブルス 形● パラレルジャイアントスラローム <p>追加:</p> <p>ユニファイドスポーツ競技の実施に関する追加情報および詳細については、スペシャルオリンピックスのスポーツ別ルールを参照すること。</p> <ul style="list-style-type: none">● 上記のパラメーターおよびスペシャルオリンピックスのスポーツ別ルールは、すべてのレベルで適用されるユニファイドスポーツコンペティティブモデルを反映している。● プレイヤーデベロップメントおよびレクリエーションモデルの枠組みの中でのルールの修正は、スペシャルオリンピックスプログラムレベルで実施できる。● チームが国際レベルの競技に選ばれた場合、そのチームは最新の公式ユニファイドスポーツコンペティティブモデルのルールに従わなければならない。
---	--



<p>15. 運動活動訓練プログラム (MATP)</p> <p>15.1 目的</p> <p>15.1.1 スペシャルオリンピックスのモーターアクティビティーズトレーニングプログラム (MATP) は、技術や機能の面でスペシャルオリンピックス公式競技に参加できない、重度な知的障害のあるアスリートのために考案されている。MATPは、重度の知的障害や重度の身体障害があるアスリートが、その障害に応じてスポーツ活動の準備を行うことができるように考案されている。重度の障害があるアスリートのため、個別トレーニングプログラムが考案されている</p>	<p>変更：</p> <p>15.1目的</p> <p>15.1.1スペシャルオリンピックスモーターアクティビティーズトレーニングプログラム (MATP) は、機能的な能力の面でスペシャルオリンピックスの公式競技に参加できないアスリートのために考案されている。MATPには、この分野で実践的な経験を持つ専門家によって開発およびテストされた、スポーツをベースとしたさまざまなトレーニングアクティビティが組み込まれている。</p> <p>15.2プログラム</p> <p>プログラムでは参加者に総合的なスポーツを基本とした運動機能活動やレクリエーショントレーニングのカリキュラムを提供する。MATPは、競うことよりも、トレーニングすることや参加することを重視する。さらに、プログラムはアスリートの能力レベルに応じた適切なレクリエーション活動を行う手段をアスリートに提供する。</p>
<p>15.2プログラム</p> <p>15.2.1プログラムでは参加者に総合的な運動機能活動やレクリエーショントレーニングのカリキュラムを提供する。MATPは、競うことよりも、トレーニングすることや参加することを重視する。さらに、プログラムはアスリートの能力レベルに応じた適切なレクリエーション活動を行う手段をアスリートに提供する。</p> <p>15.3 活動</p> <p>15.3.1 MATP はwww.specialolympics.orgに掲載されているMATP コーチングガイドに従って行われなくてはならない。</p>	<p>15.3活動MATPのアスリートは、可動性、打つ、投げる、蹴る、車椅子(手動および電動)、水上スキルの分野でトレーニングを行い、スキルを発揮する。</p>
<p>A.1 スポーツルール諮問委員会</p> <p>SOI は、スポーツルール諮問委員会の全メンバーを任命するものとする。これらの任命は、SOI の最高経営責任者 (CEO) あるいはCEOが指名した人によってなされるものとする。この任命を行う際に、SOI は各国と地域の認定プログラム、あるいはスペシャルオリンピックス</p>	<p>削除：</p> <p>SOI は、スポーツルール諮問委員会の全メンバーを任命するものとする。これらの任命は、SOI の最高経営責任者 (CEO) あるいはCEOが指名した人によってなされるものとする。この任命を行う際に、SOI は各国と地域の認定プログラム、あるいはスペシャルオリンピックスに参加している、もしくは関連している人々からの推薦を考慮することもある。スポーツルール諮問委員の任期は 4 年とす</p>



<p>に参加している、もしくは関連している人々からの推薦を考慮することもある。スポーツルール諮問委員の任期は 4 年とする。二期目の再選は妨げられない。何らかの事情により 4 年の任期を全うできない、あるいは継続を希望しない委員が出た場合には、SOI のCEOが代わりの諮問委員を任命する。</p>	<p>る。二期目の再選は妨げられない。何らかの事情により 4 年の任期を全うできない、あるいは継続を希望しない委員が出た場合には、SOI のCEOが代わりの諮問委員を任命する。</p>
<p>A. 2—スポーツリソースチーム (SRTs)</p> <ul style="list-style-type: none"> • スポーツルール諮問委員会は、各公式競技と準公式競技のルールの見直しについて、SRT's を活用すること。 • 各 SRT は、提言内容をスポーツルール諮問委員会に報告する。 <p>SRT の特定競技における主な役割は下記の通り：</p>	<p>変更：</p> <p>グローバル・スポーツ・アドバイザーズ (GSA) スポーツリソースチーム (SRTs)</p> <ul style="list-style-type: none"> • スポーツルール諮問委員会は、グローバル・スポーツ・アドバイザーズ (GSA) を活用し、各競技のルールを検討する。 <p>各 GSA は、その勧告をSRACに報告するものとする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> - 全てのルール変更案について検討する - SRAC に対し、ルール変更案に関するアドバイスや指針を提供する。 - スペシャルオリンピックと国際競技団体のルールの理解を得る。 - 競技別の資料が策定される段階において、スポーツルールが正確に反映されていることを確認する。 <p>他のSRT メンバーと協力し、SRTとしての提言をSRAC へ行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • グローバル・スポーツ・アドバイザーズは、特定競技における主な役割は下記の通り： - 全てのルール変更案について検討する。 - SRAC に対し、ルール変更案に関するアドバイスや指針を提供する。 - スペシャルオリンピックと国際競技団体のルールの理解を得る。 - 競技別の資料が策定される段階において、スポーツルールが正確に反映されていることを確認する。 <p>他のリージョナルスポーツアドバイザーと協力して、SRACへの推奨事項を提言する。</p>
<p>A. 5 - 公式フォーム：スペシャルオリンピック公式ルール変更提案記入フォーム</p>	<p>変更： 公式フォーム：スペシャルオリンピック公式ルール変更提案記入フォーム - オンライン提出フォームにより、周期的なルール改定サイクルに基づき、利用可能となった。</p>
<p>補足 B — 国際競技団体連絡先</p>	<p>変更： SOI国際スポーツ連盟の連絡先情報については、随時更新予定。</p>